

目次

《小特集》古辞書と近世絵入り百科事典

『倭名類聚抄』所引『文選』注釈考……………	洲脇武志	9
『和名類聚抄』「牛馬病」部に関する一考察——和訓「多利」を中心に……………	アントニオ・マニエーリ	25
『医心方』所引『黄帝内经太素』攷——その引用手法を中心に……………	李 芊	37
幼学書・手習い書と『訓蒙図彙』——寛文版本の四字句・上下一対の構成をめぐって……………	楊 世瑾	59
『和漢三才図会』「水草」類の構成と配列——『本草綱目』との比較から……………	楊 亜麗	80
貝原益軒撰『花譜』から『大和本草』へ——《植物の観賞》の概念の成立をめぐって……………	郭 崇	94

古辞書と近世絵入り百科事典……………安保博史・藏中しのぶ 108

* * *

『東大寺諷誦文稿』『釈迦本縁』『慈悲徳』についての基礎的考察……………藤本 誠 113

『伊勢物語』第九段と岑参「逢入京使」……………中野方子 126

「雪」の本文の〈規範化〉について——「中右記部類紙背漢詩集」を中心に……………布村浩一 137

仮名草子『酒茶論』の成立背景について——敦煌本「茶酒論」の享受という視点から……………佐々木雷太 147

作家「秋田實」登場とその時代……………浦 和男 161

書評・鈴鹿千代乃著『古代からの風 神話・伝承・祭祀』を読む……………丸山顯徳 185

* * *

順治『満文詩経』と乾隆『繙訳詩経』の経学説に関する覚え書き……………渡辺純成 左 1

満洲語副詞 mi. ci sui は「おのずから」とは限らない	渡辺純成 左 44
『満漢合璧西廂記』の総合的研究・その 8	寺村政男主編 荒木典子・鋤田智彦 左 54
『満漢西廂記』における漢字音表記	鋤田智彦 左 92
中央民族大学蔵『精訳六才子詞』について	荒木典子 左 98
『萬葉集』にみられるオノマトペ——A B型を中心に——(その壹)	王 則堯 左 105
「環境」の発見——『種の起源』の翻訳からのアプローチ	大場 真・吉田比呂子 左 119
「環境」という語の受容史——文理融合型の学術用語研究のための基礎資料として	吉田比呂子 左 139
彙報・編集後記	191

SAMPLE

古辞書と近世絵入り 小特集

百科事典

洲脇武志
アントニオ・マニエーリ

楊世瑾
楊世麗

李辛
郭崇
安保博史
藏中しのぶ

『水門——言葉と歴史——』第29号の小特集は「古辞書と絵入り百科事典」である。水門の会と古辞書研究のゆかりは深い。会誌「水門——言葉と歴史——」には、日本漢和辞書、源順撰『和名類聚抄』関連の論考が数多く掲載されてきた。水門の会初代代表の藏中進と現東北師範大学林忠鵬教授・川口憲二氏の共著『倭名類聚抄十卷本・廿卷本所引書目索引』（一九九五年、勉誠出版）は、『和名類聚抄』の引用書研究を切り拓いた。藏中進「解説」、所引書名頻度一覧「『箋注倭名類聚抄』書目解題一覧」は至便であり、林忠鵬教授の学位論文『和名類聚抄の文献学的研究』（二〇〇二年、勉誠出版）は、この分野の先駆的業績といえよう。

引用書目研究は、典籍の源泉となる出典群とその書目をめぐる出典体系を解明する方法として有効である。また、出典の引用状況を一字一句まで詳細に検討することによって、類聚編纂書の分類・配列の体系・構造といった編者の編纂の手法、さらには編纂意識をあきらかすることができる（拙稿「上代文字と中国古典」、牧角悦子・町泉寿郎編『講座 近世日本と漢学』第一巻「漢学という視座」、『第二部日本文学史と中国古典』、二〇一九年十二月、戎光祥出版）。「構造的分析の視点と方法」については、相田満氏「時空間とオントロジー」で見ると和漢古典学（勉誠出版、二〇一六年）が大いに参考になる。

本特集には、こうした古辞書・絵入り百科事典の引用書目研究の系譜に連なる、第五回「水門の会国際シンポジウム「古辞書と本草学」」の成果を中心に収録した。古辞書は『和名類聚抄』『医心方』、近世絵入り百科事典は『訓蒙図彙』『和漢三才図会』『大和本草』を対象とする。

洲脇武志氏は、尹仙花氏『和名類聚抄』引用書目の研究——「法苑珠林」を中心に——（二〇〇一年九月、大東文化大学大学院博甲第90号）を再検証し、『和名類聚抄』に引かれた『文選』注の伝本の性格を論じられた。アントニオ・マニエーリ氏の論は学位論文『和名類聚抄』『牛馬毛』門の研究——古代日本文化における馬の毛色名——（二〇一二年九月、同博甲第96号）、李辛氏の論は『和名類聚抄』とほぼ同時期に成立した『医心方』の引用書目研究である学位論文『和名類聚抄』と『医心方』——引用書目の比較を中心に——（二〇一四年三月、同博甲第113号）に続くものであり、いずれも学位を取得して帰国後の研究成果である。

近世の絵入り百科事典にも、同じ方法を敷衍しうる。明・李時珍撰『本草綱目』の甚大な影響下に成立した『訓蒙図彙』『和漢三才図会』『大和本草』の三論考は、いずれも引用書目の悉皆調査に基づく。楊世瑾氏の論は日本最初の絵入り百科事典、中村傷齋編『訓蒙図彙』版本研究の一環であり、『蒙求』『千字文』等の幼学書にみられる対語の構造が、『訓蒙図彙』寛文版本の掲出語・本文・図像の版面構成に及ぶことを明らかにした。楊世麗氏は、寺島良安撰『和漢三才図会』一〇五巻の引用書目九七〇種の悉皆調査を行った学位論文『和漢三才図会』の出版研究——『本草綱目』『本朝食鑑』との比較を中心に——（二〇一九年九月、同博甲161号）、郭崇氏の論は貝原益軒撰『大和本草』最多の引用書目『本草綱目』の出版研究——『大和本草』の出版研究——『本草綱目』との比較を中心に——（二〇一九年三月、同博甲158号）に拠る。

若手研究者の研究発表・成稿に際して、厳しくもあたたかい御指導をいただいた水門の会会員諸氏に深く御礼申し上げる。
（藏中しのぶ）